

支部だより

珠のつえ

平成30年4月26日

第17号



発行所

公益社団法人 全国珠算教育連盟

青森県支部

所在地 三沢市中央町4丁目4-6

☎0176 (53) 3662

支部長 斎藤 隆

責任者 福士隆行

第64回全国珠算研究集会 東京都品川区で開催

3月25日、東京都品川区立総合区民会館(きゅりあん大ホール)に於いて第64回全国珠算研究集会が開催されました。全国から666名、青森県支部からは29名が参加、前日には満開となった桜見物に上野公園などの桜の名所を訪れた方もおられたようです。開場1時間前には全国各支部から参加の先生方が続々と受付を済ませ、再会を喜び挨拶を交わす光景が見られました。午前10時、工藤壽和副理事長が開会の言葉を述べ、国歌斉唱、全珠連歌斉唱で開会。平上一孝理事長は「東京での開催は第60回以来4年ぶりとなる。連盟は平成25年7月1日から公益社団法人として歩み始めた。この研究集会は連盟にとって最も大切な公益事業の一つである。珠算教育に関わる多くの方々が一堂に会し研修研鑽を積み重ね、それぞれの地域でその成果を生かしていただきたい」と挨拶。続いて文部科学省初等中等教育局児童生徒課教育審議官の堀内昭彦氏が「時代は変化しようともそろばんの優れた特性は大きな価値を持っている。この珠算研究集会が実り多く充実したものになりますように」と述べました。祝電披露、担当支部長挨拶の後に研究助成論文審査経過が岡久泰大研究論文審査会委員長より報告され福岡県の真栄喜貴弘氏が研究奨励を受賞しました。



『いわさきちひろの絵と人生』午前10時50分から、いわさきちひろ記念事業団事務局長の竹迫祐子氏が講演しました。はじめに子供を生涯のテーマとして描き続けた画家いわさきちひろの画風について話されました。日本の伝統的な水墨画の技法にも通じる、にじみやぼかしを生かした独特の水彩画、輪郭がなく画用紙に水を垂らして絵具を垂らす、そして拭き取っていきドライヤーで乾かす。代表的な作品を紹介しながら、子供の存在そのものを描く絵の素晴らしさ、季節の自然の中の子供、瞳や口元の語るもの、描かないで見せる(想像を助ける絵)、子供を見守る大人のまなざし…子供が幸せになって欲しいと願って描き続けました。ちひろは1918年に福井県武生市に生まれ1974年55歳で死去。その生い立ちのことから、子供時代のこと、画家となる決意をした訳、母親としての子育てについてを紹介しました。恵まれた家庭環境に育ったこと、画家になると決意したのは敗戦によって自分の意志で生きると考えたこと、1950年に結婚し翌年一人息子の松本猛を出産、子供を生涯のテーマに絵を描き続けました。「世界中の子供みんなに平和と幸せを」という願いを描ききり、55歳と短すぎる人生でしたが、「今の時代だからこそ、すくい取っていくものがいわさきち



ひろの絵にはあるのではないのでしょうか」と結びました。

『開平の理論と指導』昼食休憩後、午後1時30分より、能登金文先生が研究発表を行いました。平方根についての基礎的な知識を理解し、開法を指導していくことが望ましいとしたうえで、指導者として知っておきたい事柄を話されました。まず、平方根について、開法に使う記号や種類の説明後、そろばんでの計算法の理論に入りました。倍根法、倍根法別法、半九九法、半九九法別法、乗減法、定数法、引算法の順にその理論を展開した後、半九九法、半九九法別法の計算法と指導の留意点を、実際の塾での指導を紹介しながら分かりやすく説明しました。発表は中身の濃い内容で素晴らしく、聴講した青森県支部会員にとっては大変誇らしく感じられました。



『高齢者に向けた珠算の指導』続いて、東京都支部の川口嘉治先生が実践発表を行いました。現在、総人口に占める高齢者人口は27.7%で4人に1人。第2次ベビーブーム時代に生まれた人が、65歳以上となる22年後には、35.3%で3人に1人となります。毎日楽しく過ごす喜びの活力になる様に、生きがいの一つとしてそろばんを活用していけたら…と考え、自分が培った技能を地域の人に継承していきたいという思いから、平成28年12月から荒川区の荒川老人福祉センターで指導を始めました。前任者からの引き継ぎの言葉は「怒らないでね」の一言でした。上手にさせるというよりも毎日楽しく生き生きと過ごしていける場所にしたいと指導を始めました。授業の概要、カリキュラムと進め方、問題点とその対応についてと進め、授業の様子と受講者の声を動画で紹介しました。今後の目標は「地域の競技大会にシルバーの部を設けたい、高齢者のそろばんファンを拡大していきたい、喜びの活力となるような指導を継続していきたい」と話されました。午後4時からの閉会式では、澤田悦子研修学教委員長が実りある集会となったことへのお礼を述べ、次年度開催担当として斎藤隆支部長が「是非青森へお越しください」と挨拶し、岡久泰大副理事長の閉会の言葉で幕となりました。



検定試験 十段合格者

◇ 383回検定試験
(平成30年1月28日)

暗算 斗賀 姫花
(三沢地区)

◇ 384回検定試験
(平成30年3月18日)

暗算 中林磨瑠久
(弘前地区)

H30.5～7月の 行事予定表

- 5/30(水) アメリカンスクールコンテスト
(三沢市・社会福祉センター)
※予算書では31日になってるので、訂正をお願いします。
- 5/27(日) 第385回検定
- 6/10(日) 第49回県大会 兼 東北七県予選会
- 6/17(日) 6月検定
- 7/22(日) 第386回検定
- 7/28(土) 第7回世界珠算心算競技大会
(参加者：斎藤俊選手 場所：イトピア)
- 7/31(火) 第46回東北七県大会 (岩手県)

～研究集会前夜祭は、東京湾クルーズ～

研究集会前日の前夜祭は東京湾を就航しながらコース料理を楽しむことができる大型のレストラン船「ヴァンティアン」で開催されました。288名が参加し青森県支部からは20名が非日常の空間で優雅なひとときを



< 抽選会で10名の中に選ばれた斎藤美智子先生 >

過ぎました。竹芝桟橋から7時20分に出航し、レインボーブリッジなど東京湾の見どころスポットを周遊しながらフルコース料理を楽しみました。東京都支部会員の心温まるおもてなしで2時間があっという間にすぎ、おみやげまで頂きました。みなさんにとって良き思い出となったことでしょう。



第8回フラッシュあんざんフェスティバル

南黒地区：須藤 亨仁

南黒地区の地区大会、フラッシュあんざんフェスティバルを企画、開催してから早いもので8年がたちました。8年前の私は30代前半で、当時を振り返ると、町内会のイベントとフェスティバルを掛け持ちをしていたことがあり、自分のキャパを大きく超えた仕事量に頭がおかしくなりそうだったことが、懐かしく思い出されます。

そんな私も40代。珠算界ではまだまだ若手ですが、人生の折り返し地点を回っており、だんだん物事が面倒になってきています。よって、昨年は従来利用していた藤崎町文化センターの改修工事に便乗し、フラッシュあんざんフェスティバルをお休みしてしまいました。

《開催動機》私だけかもしれませんがここ2～3年、少子化のビッグウェーブに見舞われ、塾生は入ってこない訳ではないけれど、珠算塾としての勢いが弱くなっている感が否めません。このような状況で大会を開催しても、大会が成立するほどの参加者が集まるのか…という大きな懸念がありました。そこで、丁度当塾で選手が途切れたこともあり、大会を開催する意欲を失っていたので、私は今までやってきたことの反省を含め、考えてみました。

どこの塾でも、競技で優劣がつくばかりに、参加したくない生徒がいると思います。優劣(勝負)にこだわらないイベントであれば参加しやすくなる生徒が増えるのではないかと…？そういう発想から「競技ではない、珠算のイベントを開催したい!」と思うようになり、新たなフラッシュあんざんフェスティバルが生まれました。

《開催準備》2018年3月3日開催。事前準備は2回。担当や進行の打ち合わせやビンゴの商品作りです。競技ではないので、トロフィー等は準備する必要がありません。しかも会場を変更し、藤崎町の公民館的な施設『ふれあいず〜む館』で行ったため、会場費もかなり浮きました。おかげで予算的に余裕があり、参加者に対して均等に分配できたと思います。ただ、ビンゴの特賞は図書カード五千円なので特別です。毎年、県大会のように開閉式でオープニング動画を放映していましたが、今年は開場と同時に案内動画を流しておきました。

《ついに開催!》定刻になり、浪岡の古村先生の司会進行でフェスティバル開催です。内容は次の通りです。

①これまでの暗算総合競技を暗算種目と称して点数と級(参考)を成績表に記載し渡す。※問題が暗算検定に準拠しているのので出来た問題で級が分かります。

②お昼にかけて開催してお昼ごはん(カレーライス)をみんなで食べました。※カレーは当日作りました。例年通りボランティアのお母様方フル回転です。

③参加者は参加シートを持って各ブースを回り、終わったらシールを貰います。※シートは当初ほぼ英語でしたが、分かりにくいという意見が出て日本語が増えました。

以下自由行動で各ブースに分かれイベントに参加します。

①フラッシュ暗算検定ブース…フラッシュ暗算検定を会場で行う。担当:成田先生(平川)

②手作りストラップを作ろう…ソロバン玉を使ったストラップ作り。担当:早川先生(浪岡)

③英語読上暗算体験…1～20までの数字を英語で学ぶ。担当:須藤イコ先生(藤崎)

④カナッペを作って食べよう…クラッカーの上に果物やクリーム等をトッピングし、自分だけのスイーツを作る。担当:須藤麻有先生

《感想》フラッシュ暗算検定は、塾で行っている所と行っていない所があったので、少し不安もありましたが、大きなトラブルもなく無事終了することが出来ました。スクリーンに映した大画面で検定を受けたツワモノもいました。ストラップ作りは大成功!滞りなく済みました。英語読上暗算も上手いききました。少数ですが英語に尻込みする生徒もいたらしく、やらなかった人もいたのでは?やはり人気だったのがカナッペを作るスイーツブースで、長い行列ができていました。しかしここはもう一工夫必要だと思いました。というのは、ただ作って食べることになってしまい、作ったものがどうだか評価をする過程が無かったため、私としては物足りないような気がしました。次回やるなら作ったお菓子の写真を撮ってSNSにアップするなど、いわゆる『インスタ映え』を狙いましょう。

思わぬトラブルだったのがカレーライスのご飯を足りなくしたことです。ご飯の量をきちんと決めていなかったためでした。しかし、生徒・保護者に行き渡ったので大問題ではなかったと思います。

《ビンゴ・閉会式》恒例のビンゴですが、今回図書カードの他は、出版社の文具やおもちゃ等を袋詰めして、なかなか豪華なものになったと思います。保護者用の景品も準備してありました。

閉会式では、支部長から全員が、『暗算種目成績表・フラッシュ検定認定証・フラッシュ暗算フェスティバルオリジナル合格缶バッジ』を受け取り、フェスティバルは無事終了することができました。参加者を楽しませるということに関しては、まだまだ実力不足の感はありましたが、来年は更に工夫を凝らし、より良いイベントになるよう努力したいと思います。



< フラッシュあんざん検定 >



< カナッペ作り >



< ストラップ作り >



< 英語読上暗算 >

※参加シート

